

NO42  
2010. 1



### 佐久の蔵元

—遠く元禄の昔から…—  
**橘倉酒造株式会社**  
 佐久市臼田653-2

—橘の蔵の  
 静かなる鼓動…—  
 『酒造り一筋三百有余年  
 今も息づく変わらぬ想い』  
 今日まで三百を優に超えて  
 受け継がれてきた一冬一冬の、  
 何気ない光景の中に織りなす  
 熱き想いと一徹な生業。  
 三百余年の伝統を経て今日  
 もそして明日も新たな歴史を、  
 一途な想いを、重ねていく。  
 人・自然・歴史を大切に



酒造りの名水



酒たる上部

支部長あいさつ	2
建築課長ごあいさつ	3
事業中間報告	4
会員大会について	5
研修旅行	9
親睦ソフトボール	10
特別寄稿	11
景観法について	13
新会員の声	14
事務局よりお知らせ	16

モクジ

## 新年のご挨拶

(社)長野県建築士会佐久支部  
支部長 **重田 元一**



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、清々しい気持ちの中で新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。昨年5月に支部役員が新体制となり、7ヶ月が過ぎ

た訳ではありますが、各委員会、会員の皆様のご協力により講習会等例年以上に企画、実行をされております事に改めてお礼申し上げます。特に第5回支部会員大会におきましては、会員参加82名、一般参加者約27名、合計109名の皆様に大会を盛り上げていただきました。

さて、これからの建築士会のあり方ですが、21年度より、本会の組織運営検討特別委員会へ各支部1名参加をして、法人法が変わる事への対応として、一般法人または公益法人への移行の検討を進めておる所であります。佐久支部には、11月17日本会より関会長をはじめ4名の方が公益法人制度の説明に来ていただき、支部理事と意見交換をいたしました。私からは、どちらの法人に移行するとしても、今までの支部活動に影響が及ばない事、また、会員が移行をした事により減少しない事等をよく議論をしてからと申し上げておきました。法改正による公益法人制度改革のタイムリミットは25年11月末であり、それまでに新法人への移行を終える必要があります。大変に忙しい訳ではありますが、これからの予定は、22年5月の総会において『支部と本会の会計統合、公益か一般、目指す法人を決定』する事になります。22年12月の理事会、評議委員会において『23年度から支部と本会の会計統合についての確認』また、目指す方向に沿った体制整備方針の検討をして、23年5月総会に目指す方向に沿った体制整備が決定、また、会計統合した23年度予算、諸規定が決議されます。その後24年5月総会において新法人制度に移行決定、定款の変更が議決され24年12月の理

事会、評議委員会において新法人における役員の候補者が選出されます。25年5月の総会は、新しく生まれた法人の総会となり新役員が決まる事となります。2人以上のグループなら誰でも出来て認可される一般法人か。公益事業の比率が50%以上必要で認定基準のハードルの高い社会的信用性のある公益法人への移行か。どちらになるかと思えます。何れにしましても本会、支部が始まって以来の組織の改革が行われる予定であります。佐久支部としては、会員ひとりひとりのご理解とご協力を得てこの問題に対応していく考えであります。

新年の挨拶ではないような報告となってしまいましたが今年“寅”年であります。“寅”は千里の道を行って返ると言われております。その勢いに乗って会員の皆様が大いに飛躍する年である事をご祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。



## ご挨拶

長野県佐久地方事務所 建築課  
課長 **小林 健吾**



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は県の建築住宅行政に格別の御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げますとともに、本年もよろしく願い申し上げます。

近年は温暖化の影響で私の自宅周辺（八幡原史跡公園の北側、長野市小島田町というところに住んでおります。）でも雪かきをするほどの降雪がめっきり減ってきております。

冬になっても庭に雪が無い風景は、雪を見るとワクワクしながら雪かきをする私にとって、いささか季節感が乏しい正月に感じております。

さて、一昨年の後半から急速に悪化した経済・雇用情勢は未だ回復を実感する状況に至っておりません。

経済指標の一つとされる新設住宅の県内着工戸数を見ましても、前年戸数を下回る状況が一年以上も続いており、設備投資や個人消費を見ても明るい材料が見つからないのですが、経済の専門家の間では「景気の持ち直し」との声も聞こえてくるようになりました。今取り組まれている国、県の追加経済対策により、一日も早い経済・雇用状況の好転に期待したいと思います。

このように明るい材料が乏しい中ではありますが、建築士会佐久支部におかれましては、社会から期待される専門家としての資質、知識、経験、能力と倫理観の向上を図り、まちづくり、

景観育成活動を通じ地域との信頼関係を一層深めていただきたいと思います。

本年は、「一日に千里の距離を走り戻る」優れた行動力を持つと言われる寅（虎）の年です。

この年にあやかって（社）長野県建築士会佐久支部の益々のご繁栄と会員の皆様の大いなる飛躍を心からご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。





# 平成21年度 事業中間報告

- 7. 3 東信ブロックゴルフコンペ  
望月カントリークラブ
- 7. 3 県全国女性建築士の集い実行委員会  
長野市生涯学習センター
- 7. 4 第3回情報広報委員会 佐久ランドホテル
- 7. 8 県C P D・専攻建築士制度運営委員会  
長野県建築士会館
- 7. 8 第1回青年女性委員会 佐久ホテル
- 7. 14 第2回社会貢献委員会 佐久ランドホテル
- 7. 15 県青年女性委員会 長野県建築士会館
- 7. 16 県組織検討委員会 長野県建築士会館
- 7. 17～18 全国女性建築士の集い 長野市
- 7. 22 第1回三役委員長会議 かつ栄
- 7. 22 県社会貢献委員会 長野県建築士会館
- 7. 23 県建築活動委員会 長野県建築士会館
- 7. 24 住宅性能保証制度と長期優良住宅講習会  
佐久勤労者福祉センター
- 7. 24 県組織検討委員会 長野県建築士会館
- 7. 28 第2回総務企画委員会 かつ栄
- 7. 29 第2回C P D・専攻建築士制度運営委員会  
千曲パークホテル
- 7. 31 建築関連法規講座－その①－  
佐久勤労者福祉センター
- 8. 4 第3回社会貢献委員会 佐久ランドホテル
- 8. 5 第2回青年女性委員会 佐久ランドホテル
- 8. 6 佐久地域景観育成委員会 佐久合同庁舎
- 8. 7 県会員大会運営委員会 長野県建築士会館
- 8. 7 佐久市景観計画及び  
都市計画区域拡大に関する講習会  
佐久勤労者福祉センター
- 8. 10 県木造塾運営委員会 長野県建築士会館
- 8. 17 県社会貢献委員会 諏訪市
- 8. 20 県総務情報委員会 長野県建築士会館
- 8. 21 第3回C P D・専攻建築士制度運営委員会  
佐久ランドホテル
- 8. 22 親睦ソフトボール大会 千曲川交流広場
- 8. 25 第4回社会貢献委員会 佐久ランドホテル
- 8. 27 第3回総務企画委員会 かつ栄
- 8. 28 建築関連法規講座－その②－  
佐久勤労者福祉センター
- 9. 1 第2回教育事業委員会 八風
- 9. 3 県理事会 長野県建築士会館
- 9. 4 三団体親睦ゴルフコンペ  
望月カントリークラブ
- 9. 4 県社会貢献委員会 諏訪市
- 9. 4 第3回青年女性委員会 魚民
- 9. 5 住宅セミナー 佐久商工会議所
- 9. 9 第2回三役会及び第2回理事会  
佐久ランドホテル
- 9. 11 建築士の為の勉強会  
佐久勤労者福祉センター
- 9. 15 第5回社会貢献委員会 佐久ランドホテル
- 9. 17 建築士免許申請及び交付 佐久合同庁舎
- 9. 19 全国女性建築士の集い 長野市
- 9. 25 第4回情報広報委員会 佐久ランドホテル
- 9. 25 第4回青年女性委員会 (株)星野組
- 9. 29 第2回三役委員長会議 佐久ランドホテル
- 9. 30 第3回C P D専攻建築士制度運営委員会  
佐久ランドホテル
- 10. 2 県ゴルフ大会 千曲高原カントリークラブ
- 10. 3～4 第3回親子で作ろう!! ウッドクラフト  
イオン(株) ジャスコ佐久平店
- 10. 14 第5回情報広報委員会 会報取材
- 10. 16～17 三団体合同研修旅行  
建築士会全国大会(山形大会) 山形県
- 10. 19 第3回三役委員長会議 佐久ランドホテル
- 10. 19 臨時理事会(新公益法人制度勉強会)  
佐久ランドホテル
- 10. 21 支部会員大会P R  
FM佐久平出演(重田支部長)
- 10. 22 佐久木造住宅耐震推進協議会  
精密診断後のフォローアップ等説明会  
かつ栄
- 10. 22 県会員大会実行委員会 諏訪市
- 10. 23 瑕疵担保履行法・土地改良・  
地盤調査等勉強会  
佐久勤労者福祉センター
- 10. 26 県三役会 長野県建築士会館
- 10. 28 支部会員大会P R  
FM軽井沢出演(荻原副支部長)
- 10. 30 県青年女性委員会 長野県建築士会館
- 10. 31 第5回佐久支部会員大会 千曲パークホテル
- 11. 4 県社会貢献委員会 諏訪市
- 11. 6 第6情報広報委員会 佐久ランドホテル
- 11. 13 第6回社会貢献委員会 かつ栄
- 11. 17 臨時理事会 新公益法人制度支部説明会  
佐久ランドホテル
- 11. 21 第4回会員大会 諏訪市
- 11. 23 第10回佐久地域建築文化賞現地審査下見
- 11. 29 川越街並み見学会 埼玉県川越市
- 12. 2 第3回三役会及び第3回理事会  
佐久ランドホテル
- 12. 8 第7回情報広報委員会 佐久ランドホテル
- 12. 9 第10回佐久地域建築文化賞現地審査会
- 12. 11 県理事会 長野県建築士会館

## 第5回 会員大会について

去る平成21年10月31日(土)に、佐久支部会員大会が開催されました。意欲ある多くの会員の皆様にご参加を頂き、誠にありがとうございました。今回残念ながら都合でご参加できなかった会員の皆さんに、大会の内容を簡単にご報告致します。

### ■重田支部長挨拶



### ■柳澤弘様の県知事表彰受賞の挨拶



■支部委員会発表では、社会貢献委員会の山田委員長と、青年女性委員会の星野委員長から活動報告を、とても盛況だった映像と共に発表して頂きました。

■研修会は「森へのいざない」と題し、NPO 法人信州そまびとクラブ理事長の工藤孝市先生にお話を伺いました。森への関心がさらに深まる内容でした。とても参考になりました。

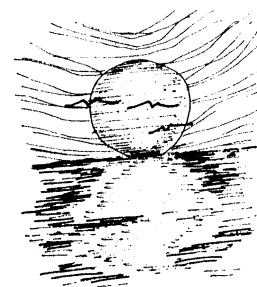
■食後で眠くなる頃に、恒例となった「ストレッチ体操」でリフレッシュしました。ご指導は(一財)身体教育医学研究所健康運動指導士の渡邊先生でした。

■文化講演会は、東京大学生産技術研究所教授の藤森照信先生に「藤森流建築の作り方」の講



演をして頂きました。興味深くとても楽しめる内容でした。たいへん笑いましたがとても勉強になりました。

最後にこの大会で新しい発見、出会い、何らかのヒントを得ることができたのではないのでしょうか。今後も皆で協力し、佐久支部会員大会を末永く大切にしていきたいとおもいます。



## 「藤森流建築のつくり方」を聞いて 中島新八郎

建築関係の講演を聴いて腹の底から笑えたのは、たぶん初めてです。藤森先生のお話には、感心、参考、勉強になったことはもちろんですが、何より楽しい、幸せな気分浸れたことが自分でも一番の驚きでした。

耐震偽装問題以降の我々を取り巻く環境の目まぐるしい変化については今更ここで言うまでもありませんが、それが良い方向に向かっているとは思えず経済情勢の急激な悪化と相まって、様々な場面で嫌な、やりきれない気分させら



れることが多々あります。このような時に先生の貴重なお話を聴けたことは何事にも変えがたい体験であったと感じます。

自然との調和、自然素材での仕上等全て興味深い話題でありましたが、揺れる茶室は建設の動機も含めて特に印象に残る話でした。仕様の面で最近の構造に関する事には、首を傾げることが少なくありません。例えば最近の建物（特に木造住宅の基礎）の鉄筋量とコンクリートのセメント量はどう考えても多すぎると感じています。コンクリートなどテストピースを潰すと設計基準強度をはるかに超えて高強度コンクリートかと思う様な結果を目にし、逆に爆裂の

不安がよぎったりすることさえあります。別に私自身揺れる事自体が良い事と思っているわけではありませんが、必要十分ということが忘れ去られている昨今、自身で考え、造り、その結果の揺れとそれを止めるバランスを納得して楽しんでいる姿には、共感を覚え感動しました。建築や物造り、そのための思考等はもちろん苦しみもありますが、本来は楽しいことでその結果についても楽しめるということを思い出させて頂きました。

本当にあつという間の充実した90分間でしたが、自分の中にひとつの後悔が生まれてきました。昨年、先生の作品を御実家から美術館まで運搬する機会に恵まれたのですが、ただ義務感のみで参加し、あまり興味を覚えませんでした。今、思い起こすと泥壁のモデルと思われるパネル、凸凹銅版仕上げと思われるパネル等があったことを思い出し、講演後の今ならいろんな興味を持って見れたのにと、自分の感受性や芸術性の低さを痛感しました。先生の更なる御活躍を期待します。ありがとうございました。





## 平成21年度第5回会員大会 社会貢献委員会報告

社会貢献委員長 山田 功

私たち社会貢献委員会の今年度の活動は、4月25日に行いました見学会「旧臼田町を訪ねて」、9月5日に行いました「第3回知って得する住宅セミナー」、そして10月3日4日の二日間、開催しました第3回の親子で作ろう！ウッドクラフト」の3つとなります。

それでは、それぞれの活動を紹介したいと思います。4月に行われました「旧臼田町を訪ねて」の見学会は、あいにくの雨の中でしたが、約30名の参加者で行われました。当日は、佐久市の元職員の井出さんに案内と説明をしていただきました。臼田文化センターにて川村吾蔵の作品を鑑賞し、その後、勝間の千曲川のほとりにある川村家の住宅を見学致しました。

川村吾蔵は、ご存知の方が大勢いると思いますが、明治37年（1903年）に、この佐久の川村家より20歳でアメリカに渡り、彫刻を学び、またフランスに渡りフランス国立美術大学へ入学し優秀な成績で特待生にまでなったそうです。その後また、アメリカに再度わたり、彫刻家マクモニスの助手になり、モニュメントや、上流階級の肖像彫刻の製作を手がけていました。

代表作として、理想的な乳牛の体型を精巧に作り出した乳牛の像、マッカーサー元帥、正義の一對などの彫刻が有名です。

また、川村家の母屋は1844年、江戸時代の後期に建てられたもので、多くの改修や修繕が行われていますが、そのダイナミックな基本的構造や、玄関の唐破風の屋根の彫刻、書院造りの奥座敷などが現在もしっかりと残されています。

次に行ったのは五稜郭です。ここでは、お台所の内部を見学し、ここのいわれや、歴史など詳しく説明していただきました。

内部に入るのは、初めてでしたので、2階に上り実際に大きな梁をまじかにみて、その当時の組み上げる作業の大変なこと、窓にみる当時の仕組みにすばらしい技術に感激しました。川村吾蔵の記念館がこの五稜郭内に建設されています。

最後に上宮寺で梵鐘と、仁王像を見学しました。この寺の鐘楼の梵鐘は、小さなものですが、南北朝初期の1938年に作られた武田信玄に關りの深い結構有名な鐘だそうです。仁王像は、室町時代の後期の製作と見られているとの事でした。かなり古く、生地が見え、傷など痛んでいましたが、それだけに歴史を感じながら見学会は終了いたしました。

本当に最後まで冷たい雨の中での見学会となりましたが、この地に住んでいながら、ほとんど知らずに、本当に勉強になりました。特に井出さんの説明は、本当に詳しく、良くわかっておられ、ぜひ次の機会にもお願いしたく、感謝の気持ちでいっぱいです。

続いては、佐久商工会議所で行いました、第3回目の住宅セミナーです。今回は、ガスと電気のコラボレーション、それぞれの利点を生かした設備をテーマにマイホーム発電のエコウィルと太陽光発電のソーラーシステムについて勉強しました。

長野都市ガスさんを迎えて、ガスで発電、給湯、暖房まで全てまかなうコジェネレーションシステムを説明していただき、いかに環境にやさしく経済的であるかを説明していただきました。また、ソーラー発電との併用でさらにメリットが広がることを学びました。

ソーラー発電では、また現在の補助金や普及の状況、また売電価格の予想などを説明いただきました。さらに、質問の時間には、多くのことが聞かれ、特に、各メーカー製品の特徴や価格、また寿命、耐久性能、一般の講習会にない一歩踏み込んだ応答がされ、非常にためになった勉強会になりました。

最後に、ジャスコ内で開かれました、ウッドクラフトです。今回は、重田支部長の推薦により本会の地域活動センターの助成金事業にも認定され、10万円の補助を受けることが出来、さらに恵まれた状況の中で進めることが出来ました。特に今までの反省の中で上がっていました、建築士会を認知していただくために、建築士会の名入りのベストをそろえ、名入りのティッシュペーパーを配ることにしました。

イベントの内容については、社会貢献委員会

ちくま No.42

は前回とほぼ同じで、巣箱、プランター、花台、イスの製作と、簡単に出来るウットデッキの作り方、実演コーナーとしました。また、私たち建築士会を紹介するうえで、教育事業委員会に協力をいただき、文化賞作品と20周年コンペ作品、子供が作る未来の家のパネルを展示していただきました。

また、新たに青年女性委員会が加わり、ホットボンドを使っての工作や、井出陽治さんが手摺の円柱を斜めに切断した端材に家族の顔を描くコーナーを設け、充実した内容になりました。

製作の品はそれぞれ50台ずつ、4種類の合計200台を用意し、イベントの参加人員も30名を越え多くの方々に支えられて無事に終えることができました。

特に、製作品の加工に加わっていただきました会員の皆様には本当にありがとうございました。これに懲りずに、また是非応援をよろしく願いいたします。

青年女性委員会のホットボンドを使っての工作は、大盛況でした。今まで、小さな子供さんは、なかなかかなづちを使っての参加は大変でしたが、身の回りの自然にある木の枝やどんぐりや松ぼっくり、木の実や葉っぱなど、何でもくっつけて形にする。本当に子供たちの想像力、また好きなことに集中できる力に、改めて学んだ気がしました。

ウッドクラフトは、今回で、3回目となり、打ち合わせや、準備など、役割担当がほぼ前回にならい、決まっていた為、比較的スムーズに

準備は進みました。製作する品物の加工には、なるべく負担が掛からないように、今までより多くの方に手伝っていただき、材料の配達には、支部長自ら配っていただきました。ありがとうございました。

いつもながらイベントに加わって思うことは、本当にひとりひとり、親子が、また家族が、ひとつとして同じものがないこと、これに尽きると思います。親が、家族が、子供とのひと時を、どのように向き合うのか、一緒に作りながら、その家族の生活を思い浮かべます。

えらそうなことは言えませんが、子供たちの真剣な顔や、楽しそうな顔を見ていると、少しでもその記憶の中にこの時の記憶が残っていてくれればと思います。

ほんの数十分ですが、お父さんも、お母さんも、一生懸命、子供とともに物を作る時間を作ってあげられることができれば、このイベントの意味があるのだと思いました。

報告の最後になりますが、先日のウッドクラフトでは、大勢の皆さんに製品の加工から、準備、当日のイベント参加まで、応援くださり本当にありがとうございました。この場をお借りいたしまして、感謝を申し上げます。社会貢献委員会として、今後も社会に向けての活動が目的となりますが、なかなか一般の方々を巻き込んでの事業は、参加をしていただくという点で、難しいです。会員皆さんの知恵をいただいて、ひとりでも多くの方が参加できるような事業を進めていくことができればと思います。応援のほどよろしくお願い致します。



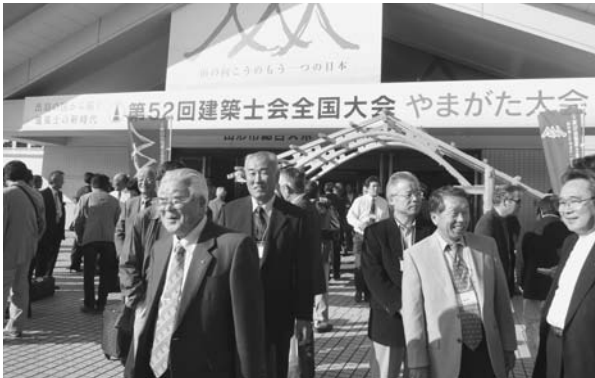
## 三団体合同研修旅行に参加して 高橋 美貴

10月16日、朝暗いうちに合庁よりバスに乗り、建築士会全国大会をめざし旅は始まりました。

参加者の日頃の行いが良かった様で、天候にも恵まれましたが、私は最初の予定になかった二日目の1015段の石段がとても不安でしたが…。

まず、天童木工の視察を、会社の方に親切なご案内・ご説明をしていただきながらしました。家具のみならず高級車の部品も高い曲げの技術で生産しているそうです。木のぬくもり、手造りのあたたかさ、丁寧な作業、やはり200年住宅を建てるのならこういう家具を置きたいものです。しかし、その前にあのロッキングチェアが我が家に迎えたいと思い巡らしながら工場をあとにしました。

その後、山形県建築士会の方々の出迎えを受け、全国大会へ出席しました。会場には花形踊りがながれ、式典も滞りなく進み、前会長の宮本先生の表彰もすみ、私達は宿のある天童温泉へと向かいました。



あくる17日もすばらしい青空のもと、旅を続ける事ができました。

今回の研修の目的である山形県が生んだ建築家高宮眞介氏の設計による「真下慶治記念美術館」の見学を美術館の方のご案内で見学しました。この美術館は、最上川の大蛇行を眼下に眺めることができる高台にありました。最上川だと説明されるまで池かと思うくらい静かな流れ



の日でした。そのほとりに、真下慶治のアトリエがあり、真下氏の作品の一つと同じアングルを見ることができます。地元村山市の杉、楢山石を用い、自然光をうまく取り入れ、そして何より周辺の景色と一体化して違和感のない建物でした。ちょうど伺った日は

五周年記念の式典の準備をしていました。小さな音楽会の開けるホールや結婚式や写生会、お茶会等ができる最上川にむかって開かれているテラスなど、この景色を愛した真下氏を高宮氏は理解して作り上げたのですね。

次に訪れたのは山形市の山寺立石寺です。1015段の石段をやっとの思いで登りましたが、景色のすばらしさに、我慢して良かったと思いました。しかし、昔の人は本当に偉いです。私は何も持たずに何も仕事をせずに只只登っただけで死ぬかと思いましたけど、材料を上げて工事をして立派な物を造ったのですから脱帽です。



最後に、上山市にある「斉藤茂吉記念館」を訪れました。この記念館はみゆき公園に谷口吉郎氏により建てられました。その後、増改築が谷口事務所の設計により大々的に行われたそうです。高宮氏も関わって、外部の意匠は原形を忠実に復元することとし、内部の改修も既存の和風の意匠を継承することを試みたそうです。そのために端部のディテールが最も重要だったとか。この建物も、真下美術館と同じで周りの景色に溶け込んでいます。ここで思ったことは、天は与える人には二物も三物も与えるということです。斉藤茂吉の才能は多事にわたっていました。

これで、楽しかった旅の思いを胸に帰途へとつきました。

御一緒して下さいました皆様 本当にお世話になりました。有難うございました。

## 平成21年度 親睦ソフトボール大会

星野 武光

去る8月22日(土)恒例の建築士会主催親睦ソフトボール大会が佐久市「千曲川スポーツ交流広場第二グラウンド」にて開催されました。

当日は、青年女性委員の行いがよかったです。絶好のソフトボール日和!となりましたw(°o°)w

今年も大勢参加していただきました。ありがとうございました。

大会終了後には、「バーベキュー」で士会会員の方々は勿論、ご近所お誘い合わせで参加して頂いた地区、事務局など、老若男女を問わず和気合い合いと日頃のストレスを発散して頂いた一日でした。

今回は『佐久地区チーム』『小諸地区チーム』

『川西地区チーム』『御・軽地区、南佐久地&助っ人チーム』の4チームとし、トーナメント方式になりました。

▼打っぞ!



▲始球式

試合結果です。

(女性1人×3点、子供1人3点加算ルール)

第一試合

チ ャ ム	1回	2回	3回	4回	5回	計
佐久地区(6点加算)	3	2	0	0	/	11
御軽助っ人(3点加算)	0	0	6	4x	/	13

第二試合

チ ャ ム	1回	2回	3回	4回	5回	計
小諸地区(9点加算)	0	0	1	/	/	10
川西地区	0	12	6	/	/	18

第三試合(3位決定戦)

チ ャ ム	1回	2回	3回	4回	5回	計
小諸地区(6点加算)	1	1	0	/	/	8
佐久地区(6点加算)	4	3	x	/	/	13

第四試合(優勝決定戦)

チ ャ ム	1回	2回	3回	4回	5回	計
御軽助っ人(3点加算)	0	0	0	3	2	8
川西地区	3	0	4	0	2x	9

総合順位は、優勝 川西地区、準優勝 御軽助っ人、3位 佐久地区、4位 小諸地区

川西地区2年連続の優勝となりました。おめでとうございます。

## 川越研修旅行

櫻井 和也

11月29日に、教育事業委員会の企画による「川越町並み見学会」が、24名の参加者により開催されました。

小江戸川越の見学がメインでしたが、途中さいたま市大宮区にある「鉄道博物館」にも立ち寄り見学してまいりました。2009年10月19日に開館して、ほぼ2年で来館累計300万人を達成したそうです。館内には1871年製造の、日本初の蒸気機関車である150形式蒸気機関車(英国から輸入)から、今年9月に追加展示された0系新幹線まで約35両が展示されておりました。模型も多数展示されており、小海線のハイブリット車両もありました。

その後、川越に移動し、午後は、シルバー人材センターの方の案内で、先ずは、重要文化財「川越大師喜多院」を拝観しました。1638年1月の川越大火で、現存の山門を除き焼失したところを、3代将軍家光公の命により、江戸城紅葉山の別殿を移築して、客殿・書院等にあてたもので、家光誕生の間・春日局の間があるのはその為とのことでした。川越の喜多院に移築されたことにより、その後は戦火をまぬがれ、約370年前の書院造りが現存するのは、感慨深いものがあります。

また、境内には、1782年から約50年をかけて建立された538体の羅漢(石仏)が鎮座しており、その中には、十二支を配した羅漢もあり、来年の干支の虎を配した像は、にこやかで、来年は是非良い年になりますようにと手を合わせて参りました。

喜多院から北西の方角へ1kmほどの距離に蔵造りの町並みが並ぶ一番街があり、この蔵造りは、類焼を防ぐための耐火建築物で、今の東京では見ることのできない江戸の面影をとどめており、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されているとのことでした。

また、電線は地下に埋設してあるそうで、そのため電柱がないので、

通りから眺めると空がすっきりと見え、とても美しい景観でした。





## 特別寄稿

### 建築士の心

出澤 潔

佐久支部創立20周年を記念して「軌跡そして翔」が大変内容の濃い、親しみのある体裁で発行されました。あらためてこの記念誌を開くと、建築士会を通して知り合った多くの仲間達の名前が眼に入り、このような仲間と共に在る幸せを感じ、とても温かい気持ちになります。

資料によれば、建築士法が公布された翌々年の昭和27年4月、県建築士会の設立と同時に南佐久支部と北佐久支部が設立されました。県建築士会が設立される前年、小諸建築士会が設立され、昭和29年には長野県建築士会岩村田支部が設立されたとあります。そして、昭和34年には第9回長野県建築士会定例総会が軽井沢晴山ホテルで開催され「予定人員をはるかに突破して立すいの余地のない程」だったと記録されています。前年874名の会員がこの年には倍増の1783名に拡大し、会員の約1/4に当たる500名の会員が参加した定例総会は、熱気溢れるばかりだった事でしょう

これ等の事実は、戦後の復興期に国土建設の担い手としての「建築士」という新しい国家資格を受けた先輩方が、その資格に誇りを持って社会の一員たろうとした情熱の表れだったのだらうと思います。佐久支部の活動が様々な機会ですべて話題になり賞賛されるのは、あのような先輩方のDNAが私達に引き継がれているからなのかも知れません。

今、この国は高齢化・人口減少・莫大な財政赤字という三重苦の中で、より良い社会の実現を目指して、さまざまな制度改革に向かおうとしています。「コンクリートから人へ」の思想のもとに、国の資力を今迄とは違った方向に向けようとする改革の路線は、私達を先の見えないトンネルに閉じ込めてしまっているようです。そして、地球規模の新資本主義の波は一国の経済のコントロールを失わせ、私達に未来を見る事を拒否しています。このような時、私達は自分をどう律したら良いのでしょうか。

「軌跡そして翔」に24年前、佐久支部に入会さ

せていただいた時の拙文が掲載されました。赤面しながら読み返し、自分の考えの進歩のなさを知り「今、君達が考えている事は20年、30年後にもきっと同じことを考える。だから今、一生懸命考えなければならない」と吉村順三先生に諭された事を思い出しました。吉村先生の「建築家として、もっとも、うれしいときは、建築ができ、そこへ人が入って、そこでいい生活が行われているのを見ることである。日暮れどき、一軒の家の前を通ったとき、家の中に明るい灯がついて、一家の楽しそうな生活が感ぜられるとしたら、それが建築家にとっては、もっともうれしいときなのではあるまいか」（「私は何故新宮殿の設計から手を引くか」朝日ジャーナル1965年7月11日号より）という先生の心は、建築生産に携わる全ての人に宿さなければならない心であると私は思っています。

崩れつつある社会システムが、人の心を歪め、人の絆を失わせようとしている時、人の幸せのための環境創りという崇高な使命を与えられている私達は、あらためて思いを新たにしなければなりません。

今、建築士法・建築基準法の上位法としての建築基本法が準備されています。建築基本法には建築生産に関わる関係者の責務と役割が謳われるものと思われませんが、当然其処には発注者の責務も明確にされなければなりません。これまでの制度改革の議論が、建築士の持つ社会的責務について一定の価値観の上に議論されたのかどうか、ある意味歪んだ視点での議論ではなかったのかどうか、あらためて問う必要があるように思っています。

社会の変革は今迄に経験した事のない速さと重さで、私達にその対応を迫っています。自分の進む道は自分で選ばなければなりません。

現実をきちんと見詰め、自分の持つ社会的責務を自分の心として、このつらい時を乗り越えることこそが、明るい未来へ繋がる道であると私は確信しています。

私達は誇りと絆を持って地域社会のために働いた多くの先輩方のDNAを受け継いでいます。地域社会への窓口である建築士会を自分達の拠り所として、自分の進む道を探したいものです。



## 知事表彰受章の雑感

柳澤 弘

新年明けましておめでとうございます。皆様方には新しい年を迎えられ、ますますご清祥のこととご拝察申し上げます。

昨年は、アメリカのサブプライムローンの破綻に端を発した世界同時不況が日本経済にも押し寄せ産業界も大打撃を受けて失業者が続発し、国民生活にも大きな問題を引き起こしました。私たち建築業界も、不景気の波にさらされて厳しい一年であったように思います。本年は寅年。猛虎となって不景気を追い払い明るい景気の良い年にしてほしいと、願うところです。

私こと昨年、平成21年度長野県知事表彰（建設産業功労者）を受章いたしました、身に余る名誉と感激をしております。これも偏に皆様方のお力添えに依るものと心より感謝申し上げます。

顧みますと、私が建築士会の会員になって以来40数年の年月が経ちました。昭和44年より佐久支部の役員として活躍の場を与えられ、理事・総務委員長や副支部長等を歴任してまいりました。昭和62年行政改革の一環として地方行政の統廃合が行われ、この地域においても、南佐久郡・北佐久郡の両地方事務所が統合されることとなり、63年度より佐久合同庁舎で業務が開始されることとなりました。これに併せて建築士会、南北佐久両支部も、二支部別々では行政の対応が困難となり建築士会支部活動に支障をきたす、とのことから両地方事務所長さま（建築課）からも指導があり、両支部に於いて、合併協議会が設立され協議を重ねた結果合併することになりました。また合併準備委員会も設立され総会に向けて取り纏めが行われて来ました。時恰も、昭和64年1月に昭和天皇が崩御され、その年に年号が平成となりました。平成元年4月18日に合併総会が開催され、新しい長野県建築士会佐久支部が誕生したのでした。合併の協議が進む中で、私が合併の協議会・準備委員会の委員長を務めていた関係から、佐久支部の初代支部長に任命されました。新しく組織された新支部は、会員519名の大組織で、何の事業を行うにも新しい規格の下で考案して行かねばならず、役員及び、会員の皆様方に助けられ無事に、

二期四年間務めてきたことが昨日の事のように思い出されます。また、長野県建築物防災協会佐久支部の支部長を二期四年、防災協会の副会長を一期二年勤めました。その後、長野県建築士会の副会長として推挙されました。林太一会長のもとで副会長として務めましたが、その時期本会の事務局が、局長・次長はじめ全員が退職し大混乱をきたした頃でした。また、姉業建築士による、建築構造偽装事件が起こり、建築士の資質の問題でも大きな混乱が出た時もありました。事業も、会員の減少に伴い収支のバランスが崩れ、組織を縮小しなければならない時期でした。その結果、会の組織をスリム化するため4つの常設委員会と、特別委員会を随時設けることとした内容でした。大変な時期に会長となられた林会長が2期4年で退任されることから、私も同時に退任する予定でしたが、林会長の後任として、東信ブロックから佐久支部の出澤さんが会長として出る事となり、引き続き副会長として残る事となりました。出澤会長は建築士会の機構改革や、事業の見直し等について、前会長の後を受けて積極的に取り組みました。また、建築基準法・建築士法の改正に伴い、国土交通省や連合会等へ積極的に意見を述べられて、建築会のために非常な努力をされました。そのような立派な会長のもとで、何も出来ない補佐役として2期4年無事努める事が出来ました。

振りかえって見ると、建築士の資格を取得してから半世紀近い年月を建築士会と関わり、平成元年、佐久支部の初代支部長を拝命してから、昨年、8年間勤めた、長野県建築士会の副会長を退任するまで、平成の約20年間の大半を建築士会及び、建築関係の役職をしてきましたが、これを無事に努められたことは、皆様方のご指導ご鞭撻があったからこそと、衷心より感謝申し上げます。また、この度、栄誉ある長野県知事表彰の受章が出来たことは、皆様方にご推挙を頂き、無事役目が果たせられた事だと思えます。お力添えを頂きました事を重ねて深く感謝申し上げます。

結びとなりましたが、皆様方のご繁栄、ご多幸をご祈念申し上げ、御礼のご挨拶といたします。

## 佐久市景観条例及び 佐久市景観計画について

佐久市建築住宅課建築係 主任 市川 佳宏

「地域の景観は地域で守る」を主旨とした景観法が平成17年6月に施行されました。この景観法第8条の中に、「景観行政団体は良好な景観を保全し、また、地域の特性にふさわしい景観形成に関する方針や行為の制限を定めた計画を定めることができる。」とあります。佐久市は、独自の景観行政を行うため長野県知事の同意を得て、平成21年4月20日から景観行政団体となりました。

当市は、雄大な浅間山、八ヶ岳連峰に囲まれ、豊かな森林、千曲川の清流をはじめ清冽な溪流、河川などに育まれた恵み豊かな田園を有する地域であります。このような環境を舞台に、四季折々に変化する自然景観、五郎兵衛新田などの広がりある田園空間、田園から山並みへの美しい眺望、旧中仙道沿いの宿場のまち並みや市内各地に存在する寺社、龍岡城五稜郭などの歴史的建造物など様々な景観が展開しています。

市ではこれまでの間、旧佐久市で定めた「佐久市景観形成基本計画」を基に、景観形成の方向を示すとともに、佐久市開発指導要綱や佐久平駅周辺地区等に定めた地区計画また、長野県景観条例により景観の誘導を行ってきました。しかし、幹線道路沿いの野立て広告物の氾濫、周辺から突出する色彩の建築物の出現など景観を阻害する要因も生じている状況です。このような中、新佐久市として改めて景観行政に取り組み豊かな自然景観を守りながら、地域の特性にふさわしい景観を創出するために「佐久市景観計画」を策定しました。

佐久市景観計画の区域は佐久市全域となります。景観区域では、地形、自然条件や土地利用等を踏まえ、5つの地域に区分しそれぞれの景観育成基準を定めています。また、特に景観の育成を図る地域を景観育成重点地域として3か所指定し地域ごとに定める独自の基準により景観の育成を図るものとしております。

5つの地域区分としまして、都市計画法に基づき用途地域として定められた地域を都市地域、上信越自動車道、現在建設中の中部横断自動車道の両側30mで都市地域を除く地域を沿道地域、千曲川とその支流の一級河川の両側18mで都市、

沿道地域を除く地域を河川地域、国土利用計画に基づき都市地域及び農業地域として定められた地域で、都市、沿道、河川を除く地域を田園地域、都市、沿道、河川、田園を除く地域を山地・高原地域としています。

景観育成重点地域は、主要道路区域の国道141号、142号、254号沿道の両側30mの地域となります。なお、5つの地域及び3つの重点地域の中で地区計画等が定められている地域はその基準に基づくことから、景観の区域からは除くこととなっております。

届出対象行為につきましては、建築物等の新築行為は、高さ10m以上又は建築面積1,000㎡を超えるもの。建築物の外観変更は、変更面積400㎡を超えるもの。工作物の新設、外観変更等で煙突、鉄柱類、記念塔類等は、高さ10m以上のもの、擁壁等は、高さ3mを超えかつ長さ30mを超えるもの。プラント類、自動車車庫等は、高さ10m以上築造面積1,000㎡以上。電気供給施設は、高さ20mを超えるものとなっております。この他にも、土地の造成や広告物の表示等があります。これは、都市から山地・高原地域での届け出対象行為となっております。

景観育成重点地域での届出対象行為につきましては、建築物の新築行為は、高さ10m以上又は床面積20㎡を超えるもの。建築物の外観変更は変更面積25㎡を超えるもの。工作物の新設等で煙突、鉄柱等については高さ10m以上。装飾塔、記念塔類は高さ4m又は表示面積3㎡を超えるもの。擁壁等は、高さ1.5mかつ長さ10mを超えるもの。プラント類、自動車車庫等は、高さ10m以上又は築造面積20㎡を超えるもの。電気供給施設は高さ20mを超えるものとなっております。5つの地域と同じくこの他にも土地の造成や、広告物等の表示等があります。届出は工事着手の30日前までに必要になります。

また、それぞれの地域で景観育成基準を定めており、敷地の緑化や建築物の色彩の制限などを規定してあります。詳しくは、佐久市ホームページをご覧ください。佐久市役所建築住宅課建築係までお問い合わせください。

最後になりましたが、景観づくりは行政だけではできませんので、市民の皆様、建築士及び事業者の皆様のご理解とご協力がなければ、佐久市の美しい景観を守り育てていくことができませんので、よろしくお願いたします。

## 新会員の声

### 佐久に移り住んで

中村 貴久

ひょんなことから、東京の調布市から佐久市に移住してはや3年目になりました。生まれ育った故郷は静岡、そして建築家という職業に憧れて東京での学生時代と設計事務所在籍時代。そして、独立し念願となった設計室を開設し、5年間東京での生活。そして、佐久へ。25年前、静岡から友人達と「草津スキー場」へ行くことになり、タイヤチェーンを用意し、深夜2時頃、国道52号を北上。韮崎から141号線をさらに北上して野辺山付近で真っ暗な高原の道を凍結に注意しながら走った事を思い出します。途中吹雪いていて、前が見えなく早く街に出ないかと不安になっていた時に、カーナビなど無い時代だから信号の表札で場所を探し「八千穂村」と書いてある、灯りのある村に來られてホットした思いが今でも覚えております。静岡人は雪など見たことがないのでうれしいのと怖いのとでひたすら走りました。真っ暗な前方に富士山に似た山？潰れたような富士山？浅間山…（後から知った事ですが、富士山と浅間山は不思議な縁で結ばれているそうです。静岡には浅間神社<センゲンジンジャ>が多いのです。）その時は、スキー場への通り道にあった佐久という街に東京経由で移住するとは少しも考えておらず、海のない街に住むなんて考えられないと思っておりました。しかし、今、まさにあの街にいるのが不思議でしかたがありません。この街の事はまだまだ理解しておらず、生活リズムや言葉についても、おもしろい発見があります。そして建築に関しても、知らない事がいくつかあり、驚きと面白き事で勉強になり、楽しくなってきました。そしてここには四季によって変化する綺麗なアルプスやおいしい空気がある。人の温かさがある。大好きなスキーができる！そうそう、海も…地名に海が多い！少しずつですが、景色に溶け込んで居る自分が嬉しく思えます。佐久咲くです！

### 小須田俊之（株式会社銀河設計）

祖父が弟子たちに練習のために建てさせたという築60年を過ぎた我が家を、立て替えたのが平成4年。雪が降ると柱と壁の隙間から雪が舞い込み、家の中で氷が張るような自然と一体になった素朴な家に、寒がりの家族を住まわせるのは不可能と思い家の設計を始めました。まだ東京に住んでいて、下の子供たちがまだ保育園へ通っている時期でした。

家の新築は予想していたことなので寒冷地住宅や北海道の住宅を研究してはいましたが、実際に設計を始めると、何から何まで初めてのことが多く頭を悩ませる日々が続きました。最終的には吹き抜けを利用してストーブの熱で二階の寝室まで温めるプランで基本設計をまとめました。そんなある日、書店で目に留めた一冊の本がOMソーラーとの出会いでした。本を買って読んでいくと、寒くて晴天率の高い佐久地方に適したシステムに思え、さっそく浜松の本部に電話をすると、小諸の工務店さんを紹介されました。

図面を持って伺うと、社長さん夫婦が親切に相談にのっていただき色々な話をお聞きするうちに、我が家の設計で参考にさせてもらった本の著者である東京芸大の奥村先生がOMソーラーの生みの親とお話を聞き、なるほどと納得いたしました。

家のほうは大きな変更はなく設計が終了して、申請、着工となりました。OMソーラー住宅の設計は佐久地方では2番目でしたが、完成は平成4年春で我が家が最初でした。2階の一部が完成して上の子供2人が最初に越してきて、数年して下の子供2人と妻が、私は仕事の関係でいぜん東京におり、最終的に平成11年の暮れに越してきました。その頃になると図面も手書きからCADで製図するのが一般的になり、引っ越した当初はフロッピーディスクで送っていましたが、すぐにメールでやり取りするようになりました。

当初は家の各部屋に温度計を置いて、記録を取っておりましたが、あまり変化がないため何時しか取らなくなってしまいました。夏は屋根





■事務局よりお知らせ

平成21年度専攻建築士登録者名簿

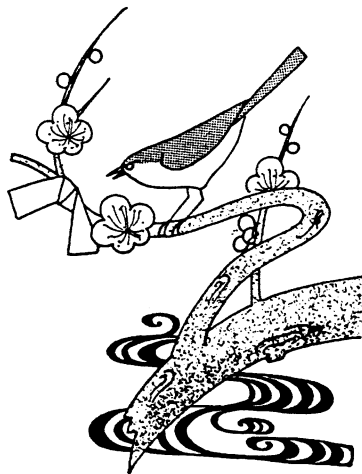
		まちづくり	設計	構造	環境	生産	棟梁	法令	教・研	
1	山田 功		○			○				2
2	鈴木 繁之					○				1
3	杉江 正一					○				1
4	鎌田賢太郎		○							1
5	土屋 一男					○				1
6	吉澤 和彦					○				1
7	山口誓四郎					○				1
8	飯田 智					○				1

平成21年度新入会員名簿

佐藤 慎弥 (御代田・軽井沢地区)  
 木内 丈夫 (御代田・軽井沢地区)  
 武井 宏友 (御代田・軽井沢地区)  
 大井 絢子 (佐久地区)  
 工藤 琢之 (佐久地区)  
 藤巻 宏康 (軽井沢・御代田地区)  
 滝本 寿 (御代田・軽井沢地区)  
 山口 正久 (佐久地区)

●編集後記

「ちくま」の表紙を「佐久の酒蔵シリーズ」に変更して2回目になりますが、「おっ！」と気がついた方はいるのでしょうか？取材に同行した幾人ものカメラマンの力作の中から写真を選び、表紙に載せるのですがカラーでないのが残念です。佐久には沢山の酒蔵がありますのでこれからの取材も楽しみになってきました。気がついた方は是非、ご意見ご感想をお寄せください。  
 (Non)



会報『ちくま』第42号 2010/1  
 発行者 (社)長野県建築士会 佐久支部  
 情報・広報委員会  
 事務局 〒385-8533 佐久市大字跡部65-1  
 佐久地方事務所内  
 TEL 0267-63-8080  
 FAX 0267-63-3330  
 E-mail ken8080@aba-saku.org  
 支部HP http://www.aba-saku.org  
 印刷所 株式会社 中 信 社  
 TEL 0267-67-2152



は平成22年7月中旬発行予定です。